

「ブー……」とやっても、「ナムミヨーホーレンゲーキョー……」とやっても、「カ  
ンジーザイ・ポーサツ・ハンニヤーハーラーミータージ……」、また、「アーメン」  
と幾らやっても、その人の苦勞くろうは取り除のぞいてくれませんよ。絶対に除のぞいてはくれない。

もし、除のぞいてくれるという人がいたら、それはもう正しいものじゃないですよ。

「あなたは、自分でやりなさい」

——これは、正しいと思うんですよ。

だって自分の事は誰がやってくれますか？——そうですね。そうしたら、自分に  
やっぱり厳きびしいもの——自分というものが、何故この世の中にいるのか、どうしてい  
かなくてはいけないのか——本当はそれをよく知るべきだと思うんですね。

## 二七、人間とは何ぞや

私は高橋先生の話聴いた。先生と仕事をした。しかし、「先生の話聴いたから、

自分の歪ひずみ・苦しみが全部無くなってしまつて、もう万々ばんばんざい歳だ」と最初は思いました  
けど、どっこいそうはいかない。——そうですね。

正しい事が分かつた。分かつて、どん／＼いろんなものが出てくる。——それが  
人生なんです。それが生きている事なんです。

しかし本当の事が分かつてきたら、苦しい時でも、一〇の苦しみが、三つ位に感じ  
るように、そうなってくるんじゃないかと思うんですね。受け取り方が変わってくる。  
人間は死ぬまで大変なんです。みんな誰でもそうですね。楽だなんて人いないで  
すよ。

私もそうですけど、高橋先生の話は、そうならないように話をしてる訳ですよ。

「みんな、こうだから、こうなつてはダメですよ」

と、話をしていらつしやるんですよ。お釈迦さんもそうですね。イエス様もそうで  
すよ。

その為には、どんな人でも、いろんな歪ひずみを持つている訳ですから、あなた達が、  
この歪ひずみを乗り越える為に、私は話をしますよ。

その代わり、やるのは自分なんですよ。何でも人任せにしては駄目だということを言っている訳ですね。

ですから、自分のやっている事で、これは駄目だと思ったら、早くそれを捨てる事。こういう話は、宗教をやっている人は、心の中に中々入らないですよ。

「申し訳無いけれども、私の話を聴くなら、あなた、宗教をやったら、ちよつと横に置いてください。何も無い処から、白紙の状態で聴いてみてください。それがオイヤでしたら、どうぞお帰りください」

と、そう言いますよ。——そうですね。

私の話を聴く人は、何をやっている人でも良いんですよ。私はそういう事で話をしている訳ですけどもね。まあ、あんまり話も上手じゃないですし、みんな中々分らないでそのまま帰ってしまう方もいらつしやって、申し訳無いと思えますけれど、

一、人間というものは何ぞや——。

一、心というものはどういうものであるか——。

一、人間は、毎日というのが、何故あるのか——。

——そういう事を、知って戴きたいと思うんですよ。誰が何処で何をやっても、そんなものは、別にどうという事はないですね。誰が本を書いても、誰がどんなものを見ても、体から金が出てきても、そんなものはどうでもいゝんですよ。

しかし本当は、神理というものには、

一、文証（大自然の摂理と人間の心との係わり合い、仕組みを証明する事）

一、理証（文証を科学的に証明する事）

一、現証（文証・理証が生活行為に現れ、心の安らぎ、人生の喜び、調和された社会が出来る事によって、神理の実証を行う事。それによって、次元の違う処から、人々に奇跡的な諸現象を現し、人々も救われていく。

また、転生輪廻や憑依霊の実証を現象を出し行う事も出来る）

というものがあって、現象であっても、やはり正しい話をする為の現象でなければいけないですね。見世物じゃないんですよ。

テレビでも、よく霊的な事をやっていますよ。あゝいうものは、本物じゃないですよ。あんな事は幾らでも出来るんです。次元が変われば、良いものでも悪いものでも、

そういう事は出来るんですよ。靈的なものは、間違ったらもう取り返しがつかない。

——そういう事じゃないですね。私達は、やはり自分を大事にしなければいけない。

若い人は、両親に対して、本当に感謝出来る自分になる。それは年を取った人でも同じですね。親がいない人はいない訳ですから——。

どんな人でも、この世に自分を出してくれた親がいる。ただ、いなくなった人もいるかもしれない。しかし、いなくなっても、心の中に親の事は在るあるんですから、それに対して、「本当に有り難う御座いました」と、そう思えるようになったら、自分の足元あしもとはどんどん……明るくなってきますね。

そういう事が、大事だと思えます。

今日はこれで終わります。どうも有り難う御座いました。

## 第一話 完

一九八五年九月七日 福岡市 香椎通信保養所ホールでの話より

(『附・本編関連の参考講話 短編集』に第一話の参考講話あり／374ページ)

『心の旅路 第一巻／帰ろう故郷の星へ』 第一話『人間とは何ぞや』を最後まで

ご覧頂き誠に有り難うございました。

引き続き、話は第二話、『心と体と経済と』へと入っていきます。

第二話も、どうかお楽しみに……。